



ホームページでもご覧いただけます。http://www.osaka-c.ed.jp/nose/index.html

能勢高校ニュースレター

第52号 H.23. 8月発行(夏の報告第1弾!)

能勢高校はこの夏「観光甲子園」と「ユネスコスクール」のふたつのイベントに取組み、能勢町を挙げての応援も頂いたおかげで、大きな成果をあげました。ニュースレター第52号をお届けします。

第3回全国高校生観光プランコンテスト「観光甲子園」 優秀作品賞「日本旅行業協会会長賞」を獲得!

「観光甲子園」は、Welcome to My Town・My Area をテーマとし、高校生の斬新な視点で地域の魅力を再発見し、地域の活性化などにつながるものとして作成した観光プランについて、採算性・論理性・消費者の視点など、実際の旅行商品として実現性の高さを競うものです。主催は「観光甲子園」大会組織委員会、共催は神戸夙川学院大学、後援は文部科学省、観光庁などです。

本校は、全国72校134プランから、本選プレゼンテーション出場10校10プランの中選ばれ、8月21日(日)全国大会本選に出場しました。会場は神戸ポートアイランド内の神戸夙川学院大学アリーナです。

本選には、北は北海道立富良野緑峰高校から、南は佐賀県立嬉野高校まで全国から選ばれた10校が、各校の「観光プラン」のプレゼンテーションを行いました。

内田千秋首席、水嶋育美教諭らの指導のもと、3年生生徒会メンバー4人(岡田尚也君、石田麻莉さん、加藤史帆さん、遠山遙さん)が、グランプリ(文部科学大臣賞、観光庁長官賞)をめざし、夏休み返上でパワーポイントを作成し、プレゼンテーションの練習を重ねてきました。パワーポイント作成に向けて、プラン提出時に取材した地元各所を再度訪ね、写真撮影とともに地元の方たちの声を聞き、地元観光プランの内容を再編集しました。また、プレゼンテーションのために人形浄瑠璃を体験し、地元から浄瑠璃人形も貸していただきました。朝早くから夜遅くまで何度も何度もパワーポイントを作り直し、プレゼンテーションの練習に練習を重ねてきました。

本選当日は、「能勢高校を応援する会」のチャーターバスで、大勢の方々が応援に駆けつけてくれました。会場内には「祝 能勢高校 全国観光甲子園全国大会出場」の「能勢高校を応援する会」からの横断幕が掲げられ、会場入り口では能勢町物産センターからの応援物産ブースまで出て、町ぐるみの声援を受けました。また、能勢電鉄様にも川西能勢口駅と山下駅に応援の横断幕を掲げていただきました。本当にありがとうございました。

本番のプレゼンテーションでは、本校の生徒4人は緊張しながらも全力でプレゼンテーションを行い、思う存分自分たちの観光プランをアピールしました。結果は、グランプリ、準グランプリは逃したもの

の、優秀作品賞として「日本旅行業協会会長賞」が授与されました。

本校の生徒たちは、全国の並み居る観光地から来た強豪各校のプランと競い合い、十分に健闘しました。表彰式・閉会式のあと、応援に駆けつけてくれた地元能勢町の方々から惜しめない拍手とねぎらいの言葉をかけてもらいました。

出場した生徒たちは本選出場で達成感を味わっただけでなく、能勢高校が地域に愛されている学校であること再認識し、地元の人たちの熱い郷土愛を感じた全国大会でした。



本番のプレゼンテーションの様子



出場した3年生生徒会のメンバー



「能勢高校を応援する会」によるバスでの応援団



会場のアリーナに張られた横断幕

文部科学省ユネスコパートナーシップ事業 「アジア/太平洋 小・中・高・大学生ESDワークショップ, 2011」に参加!

文部科学省は、ユネスコスクールをESD(持続発展教育: Education for Sustainable Development)の推進拠点として位置づけ、ESDのさらなる広がりをめざし、ユネスコパートナーシップ事業「アジア/太平洋 小・中・高・大学生ESDワークショップ, 2011」を開催することとしました。

このユネスコパートナーシップ事業は、8月18日(木)・19日(金)・20日(土)の3日間、ユネスコスクール活動が盛んな大阪で開催され、東アジア4ヶ国と国内のユネスコスクールの子どもたち、さらには東日本大震災の被害を受けた福島県の子どもたち、約50校の小学生から大学生まで約230人が集いました。

ところで、本校は、能勢町小中高一貫教育を基盤にした国際理解・環境・福祉・地域交流学习への持

続的な取組みを進めており、これらが高く評価され、昨年7月に府内の高校では7番目として、ユネスコスクールに認定されました。今年、生徒・教職員がこの「アジア/太平洋 小・中・高・大学生ESDワークショップ, 2011」に企画段階から参加することになり、能勢町での開催・運営に携わることになりました。

初日となった18日(木)、大阪府立大学の学術交流会館でオープニングセレモニーが行われ、能勢人形浄瑠璃「鹿角座」のこども浄瑠璃が披露されました。そして、中国、韓国、フィリピン、タイの学校と能勢町立東郷小学校と府立松原高校からESD活動についての報告が行われ、引き続き、小・中・高・大の異校種・異年齢の子どもたちがファミリーになり交流を深めるワークショップが進められました。この後、外国から参加した子どものうち10人は、能勢町に移動し、本校生や能勢町内の小中学生の家にホームステイしました。(8月19日付け大阪日日新聞に掲載)

19日(金)、午前中、参加者全員が本校に集合し、2グループに分かれ、本校卒業生の紙芝居師“だんまる”さんによるESD紙芝居とダイオキシン汚染を乗り越え見事に復興した本校農場での「地球の変化を能勢町で感じる」をテーマとした本校農業科の教職員によるワークショップ・農場フィールドワークを体験しました。午後からは、能勢町宿野にある豊中市立青少年自然の家「わっぱる」に移動し、入浴・夕食をはさみ、本校をはじめ府立の住吉高校・長野高校・北淀高校など参加校によるESD活動の報告を通じ、相互の理解と交流を深めました。本校からは2年生の阪下佑実さん、原田歩美さん、1年生の上田夏美さん、向井真琴さん、上田杏奈さん、野瀬楓水さんの6人が参加し、プレゼンテーションを行いました。

20日(土)、午前中、全員が、この3日間のまとめとふりかえりをファミリーごとで行った後、東日本大震災への支え合いについて学びました。午後からは、能勢町長谷(ながたに)地区に行き、全国の棚田百選に選ばれた棚田を実際に見学し、地域の人々の手により400年以上も守られてきたことや「ガマ」と呼ばれる田んぼの下を流れる水路などについて学びました。また、公民館では、地域の方から伝統ある能勢浄瑠璃を披露してもらい、全プログラムを終了しました。

参加した子どもたちは、海外や国内のユネスコスクールとの交流を通じ、それぞれが抱える課題やその解決に向けた取組み、ESD活動を学ぶことができ、貴重な体験となりました。

最後に、本校の内田首席、望月教諭、萬浪教諭をはじめ、多くの先生方の献身的な努力と地域の方々の協力のおかげで、多くの人に能勢の豊かな自然と伝統や文化に触れていただくことができ、ホスト校としての役割を果たすことができたと考えています。今後とも本校ならではの“地域との連携を基盤にしたESD活動”をいっそう充実させるとともに、ESD活動を通じ、能勢町内のネットワークづくりをしていきたいと思ひます。



こども人形浄瑠璃の披露(府立大)



だんまるさんのESD紙芝居(本校体育館)



農場フィールドワーク(本校農場)



地球温暖化のワークショップ(本校農場)



本校及び各校のESD活動の報告(わっぱる)



棚田見学ツアー(能勢町長谷)

**3年 石田麻莉さん 大阪府学校農業クラブ連盟大会 意見発表会 最優秀受賞！
近畿学校農業クラブ連盟大会 意見発表会 優秀受賞！**

7月21日、園芸高校で開催された平成23年度大阪府学校農業クラブ連盟研究発表予選会で、本校3年生の石田麻莉さんが「意見発表環境の部」に出場し、見事に最優秀賞を受賞しました。これは、昨年の松田桃子さんに続く快挙です。

発表のタイトルは「**環境の大切さを伝えたい！！**」です。北海道でのサイエンスキャンプやオーストラリア国際交流研修での体験などを通じ、人とのつながりを大事にすること、環境の大切さを広く伝えるには、情報を収集・発信していかななくてはならないことなどをメッセージとして力強く伝えてくれました。

石田さんは、この大阪府大会の結果、8月18日・19日に京都市で開催された近畿大会に大阪府の代表として出場しました。大阪でも数少ない自然が残る能勢町の環境を守り、その自然の大切さを伝えたいという思いから、表情豊かに、力強い発表を行い、優秀賞を受賞することができました。多くの人の前で、自分の考えや意見を発表するといった経験は、とても有意義であるだけでなく、これから先の進路実現などに大きく生きてきます。今後も本校での農業クラブ活動の一層の充実を期したいと思います。



園芸高校での予選会で多くの審査員の前で発表しました

ニューズレター次号は、10月1日(土)に開催する「能勢高校文化祭直前号」として発行します。また、夏の報告第2弾!の記事も掲載します。請う、ご期待!!